

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 愛信芳主会	代表者	塚本主恵夫	法人・ 事業所 の特徴	カトリック精神に基づき愛と真心を持って福祉事業に努める。 「施設理念」として①笑顔を提供する ②とにかくやってみる ③残りの時間を大切に考える ④本人や家族の想いを考える ⑤プロとして学び行動する
事業所名	丘の上倶楽部片倉	管理者	亀井裕之		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	人	人	人	2人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	①中間点で目標の再確認と達成度の評価を取り入れる。達成度が低い場合は見直し、修正を加える	全員で取り組んではいるが、雇用形態や役割の違いなどから、評価が出来ない箇所がある。 中間点で評価は行えなかった。※難しく考えすぎた。	雇用形態や役割りなどの違いから取り組みにも温度差があり、一概に評価が出来なかった。	①常勤はスタッフ個別評価へのコメント記入を徹底します。 ②中間点で目標の再確認と達成度の評価を取り入れる ※簡易的で良い 評価を開始する前、10月頃に
B. 事業所のしつらえ・環境	①インターホン又は自動ドアを工夫し、声を掛け易くする ②サービス内容などを建物前に掲示し、外部からでも判りやすくする	インターホンの工夫や外部への掲示などは取り組めなかった。	誘導看板が出来たが、まだ判りにくい。 外観からどんな施設なのか判らない。 室内はきれい 利用者が少ないので寂しい？	①外部への看板設置などは継続して取り組む事とする。
C. 事業所と地域のかかわり	①インターホン又は自動ドアを工夫し、声を掛け易くする ②サービス内容などを建物前に掲示し、外部からでも判りやすくする ③地域のイベントや行事に参加する	社協からの依頼で、支援が必要な児童への居場所を提供し、職員ともコミュニケーションを取っている。 市民センターで開催される催しへ参加している。 近隣小学校の行事を見学させてもらっている。	まだまだ知られていない。 相談できる場所だと思われていないのではないか。	①社協との連携や市民センターでの催し参加は継続して行う。 ②認知度を広めるため、広報誌(プリント)などを作成し地域へ配布する。※回覧板 市民センターへの掲示など
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	①利用者が今まで行っていた場所への同行など、自宅での生活を継続する支援をします。	受診や理髪店への送迎など生活の一部を支える事が出来た。 家族不在時には事業所内でほとんどの時間を過ごす方も居た。 自宅内で孤立している方を外出させる事が難しい。	色々出来るのに知られていない。	①生活場面での外出などの支援を継続する。※買い物、受診、趣味活動など
E. 運営推進会議を活かした取組み	①運営推進会議にて資料などを工夫し、普段の生活や活動が判る報告を行う ②個別事例の紹介、相談を行い、結果をサービスに取り入れる	運営推進会議の資料に行事等の写真を添付して判り易くした。 支援事例を用いて、活動内容を具体的に報告した。 地域の催しなどを教えてもらった。	利用者本人や家族の参加を増やしたい。	①土日祝日での開催を1～2回実施する。 ②個別事例についての報告や検討を継続する。登録者以外の地域課題への取り組みも行えると良い。
F. 事業所の防災・災害対策	①避難訓練実施の告知 ②BCP(事業継続計画)についての訓練を実施する	ハザードマップでは浸水が想定されている。 災害が想定される場合の利用の有無について、整理した方が良い。 台風前に独居宅の見回りを行った。	災害が想定される場合は、利用者も自宅にいた方が良い場合がある。	①風水害時の対応についてまとめる。 ※自宅に居てもらった方が安全な場合がある。